

(氏名)

古語の意味

重要な古語

「にほひ」という言葉は現代では「香り」の意味だけど、古文では「色の美しい」を表す視覚的なものだったんだよ。

ACEセミナー

6

現代語と形が似ている語

現代語と違う意味を持つ古語
◇現代語と違う意味を持つ古語
語はたくさんあり、意味も現代語とほとんど変わらないものもある。ただし、形が似ても現代語と違う意味を持つ古語もある。たとえば、現代語で「おどろく」といえば、「びっくりする」の意味でしか使われないが、古語の「おどろく」

浅まし

① あさまし 良い場合も悪い場合も、予想外であったことに驚く様子を表す。 ① 意外だ。思いがけない。 ② 情けない。見苦しい。	① 犬のふるひわななきて、涙をただ落としに落とすに、いとあさまし。 ② 犬がふるふるかかると、涙をほろほろ落としたので、たいそう意外だ。 ③ 野分のあしたこそをかしけれ。 ④ 秋に吹く激しい風が吹いた翌朝が興味深いものだ。
② あした 夜があけて明るくなつたことを表す。 ① 朝。早朝。 ② 何かがあつた翌朝。	② 折節の移り変わるこそ、ものごとにはあはれなれ。 ③ 季節の移り変わる様子は、何事につけても趣深い。
③ あはれなり しみじみと心動かされる様子を表す。 ① 趣深い。 ② がわい。 ③ ふびんだ。 ④ 悲しい。	④ 秋に吹く激しい風が吹いた翌朝が興味深いものだ。

④ あやし 「怪し」か「賤し」かによって意味が違う。 ① 不思議だ。 ② 疑わしい。 ③ 身分が低い。 ④ 粗末だ。	④ (怪)よき人はあやしきことを語らず。 ⑤ 身分が高き教養のある人は不思議なことを語さない。 ⑥ 賤しあやしき家に夕顔の白く見えて、蚊遣火がすすぶるもあはれなり。 ⑦ 粗末な家に夕顔(の花)が白く見えて、蚊遣を追い払つたため蚊遣火がくすくすするのも趣深い。
⑤ あらず 動詞(有)の未然形 + 助動詞「ず」の連語。 ① ない。 ② ない。	⑤ 風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。 ⑥ 風の音や、虫の鳴き声など(か)するの(も)、また言つまでもない。 ⑦ ありがたし 「有(り) + 難(し)」で、有ることが難しい、というのがもとの意味。 ① めつたになし。めずらしい。 ② 難しい。困難だ。
⑦ いか 疑問と反語の意味がある。反語は「いかが...べき」「いかが...む」の形で出てくるものが多い。 ① 疑問代名詞。「いかに...か」。 ② 反語(「いかに...ない」)。	⑦ (疑問)御心地はいかがおぼさる。 ⑧ (反語)いかが他の力を借るべき。 ⑨ (反語)いかが他の力を借りようか。(いや、借るべきではない)。

徒然草

Table with 4 columns and 4 rows. Column 1: ⑧ いたづらなり (何の役にも立たない状態を表す。), ⑨ いとほし (現代語では②の意に使われるが、古文では①の意を表すことが多い。), ⑩ 昔男ありけり。身はいやしなから、母なむ宮なりける。 (伊勢物語), ⑪ 三寸ばかりなる人、いとつつくしうつてゐたり。 (竹取物語)

美談

卑賤

大人

Table with 4 columns and 4 rows. Column 1: ⑫ えもいはず (「え言はず」きない)を強めた表現。), ⑬ おとなし (名詞「おとな」一人前の人が形容詞化したもの。), ⑭ おどろく (物音などにはつとするのがもとの意。), ⑮ おぼつかなし (対象がぼんやりして)

覚

Table with 4 columns and 4 rows. Column 1: ⑯ おぼゆ (動詞「思ふ」に助動詞「ゆ」がついた「思はゆ」から変化した語。), ⑰ おもしろし (現代語の「おももしろおかし」), ⑱ わがかなしと思ふ娘を仕うまつらせばや。 (源氏物語), ⑲ 冬枯れのけしきこそ秋にはをきをき劣るまじけれ。 (徒然草)

寂寥

Table with 4 columns and 4 rows. Column 1: ⑳ こころにくし (心憎く思うほど相手が優れていることを表す。), ㉑ さびし (当然あるべきものがなくて), ㉒ ささげ (予想されることと逆の事態になった), ㉓ さらに (下に否定の表現を伴った②の用法が多い)

凄じ

Table with 4 columns and 2 rows. Column 1: 24. すさまじきもの. Column 2: 25. つとめて. Column 3: 26. としころ. Column 4: 27. なかなか. Includes text like '現代語の「すさまじい」という意味' and '「早い」という意味の「夙」から出た言葉'.

眺む

Table with 4 columns and 2 rows. Column 1: 28. ながむ. Column 2: 29. なほ. Column 3: 30. ねんごろなり. Column 4: 31. ののしる. Includes text like '物思いにふけりながら、ぼんやりと見つめる①の意が中心になる' and '長い時間わたって、そのままの状態が続いていることを表す'.

文

Table with 4 columns and 2 rows. Column 1: 32. ふみ. Column 2: 33. べからず. Column 3: 34. ままに. Column 4: 35. むつかし. Includes text like 'もともとは「物事を書きしめた」とを言い' and '助動詞「べし」の未然形に打ち消しの助動詞「ず」がついたもの'.

懐

Table with 4 columns and 2 rows. Column 1: 36. めてたし. Column 2: 37. やがて. Column 3: 38. ゆかし. Column 4: 39. をかし. Includes text like '古文では、現代語の語の「めてたし」の意ではほとんど出ない' and '古文では、現代語の「まもなく・そのうち」の意はほとんど出ない'.

古語特有の語

◆現代語にはない古語  
 ④では、現代語と語形はあまり変  
 わらないが、意味の違う語をまと  
 めた。それに対しては、言葉そのものが現代語にはな  
 い古語をまとめてある。ここで扱っていないが、古文独自の  
 ⑤は38ページからの⑥古文資料でまとめてある。

テイツクポイント 重要古語

①いかで はじめは願望を表す ことが多かったが、 やがて疑問や反語を表した。 ①願望とくわして。 ②疑問とくわして。 ③(反語)とくわして:「か(いや、 …ない)。」	①「願望いかでこの男にもいはむと思ひけり。」 ②「寢間この世にいかでかかるとありけむと、めてたくおぼゆることは、 文にこそ侍るなれ。」 ③「この世に」とくわして「こんなことがあったのだらうかと、すばらし く思われるのは手紙であります。」 ④「反語いかで月を見てはあらむ。」 ⑤「どうして」月を見ないではおられまうか(いや、おられない)。 ⑥「雪のいと高うはあらで、うすらかに降りたるなどは、いとこそをかしけ れ。」 ⑦「雪がたいして高くはなきて、うつすらと降っている様子などは、 たいそう趣深い。」
--	---

③いふかひなし 言葉で表し ようがない という気持ちを表している。 ①言ってもしかなかったが、どう しようもない。 ②とるにたりない。つまらない。	③「聞きしよりもまして、いふかひなくぞこぼれ破れたる。」 ④(留守にしていた家はうわさに聞いていた以上)「 もないほど壊れ傷んでいる。」 ⑤「いふかひなき者のいへるには、いと似つかはし。」 ⑥「とるにたりない」子供の言った歌としては、たいそうかわいらしい。 (土佐日記)
④いみじ 良い場合も悪い場合 も、程度がはなはだ しいことを表す。 ①はなはだしい。並々でない。 ②すばらしい。立派だ。 ③たいへんだ。ひどい。	④「人間にも月を見てはいみじく泣き給ふ。」 ⑤「人の見えないすきに月を見てははなはだしく泣いていらつしやる。」 ⑥「福原大相国御門はいみじかりける人なり。」 ⑦「福原の太政大臣平清盛入道は、立派な人である。」 ⑧「昔、袴垂といみじき盗人の大将軍ありけり。」 ⑨「昔、袴垂といつてたいへんな盗人の親分がいた。」 (宇治拾遺物語)
⑤いらいら 「いらいら」は「こたご と違い、相手を適当に あしらったりする場合にも使う。	⑤「おくの方より「何事ぞ」といらふる声すなり。」 ⑥「奥の方から「何々です」と答える声かするようである。」 (宇治拾遺物語)
⑥つす ものがなくなったり、 人が死んだりしたとき の状態を表す。 ①なくなる。消える。 ②死ぬ。	⑥「翁をいとはし、かなしと思しつることもつせぬ。」 ⑦「翁を気の毒だ、いとしとお思ひだつたことも消えた。」 (竹取物語)



止む事

本意

⑦うたてし 情けなく見苦しい 様子を表す。 ①いやだ。おもしろくない。 ②気の毒だ。残念だ。	⑦「言しこそあれ、うたての心はへや。」 ⑧「言葉かいろいろあるのに、こんなことを書くのはいやな性格だ。」 (徒然草)
⑧え……打ち消し の語を伴って 全体で不可能の意を表す。 ①できない。	⑧「子は京に宮仕へしければ、まうづとしけれど、しばしばえまうづす。」 ⑨「子は京で宮廷勤めをしていたので、(母のもとへ)うかがおつとしたけ れど、たびたびはつかうことができない。」 (伊勢物語)
⑨つきづきし その場の状況や 様子に調和して いることを表す。 ①似つかわしい。ふさわしい。	⑨「いと寒きに、火などいそぎおこして、炭もてわたるもいとつきづきし。」 ⑩「とても寒い(朝)に、火などを急いでおこして、炭を持って通るのもと ても似つかわしい。」 (徒然草)
⑩つゆ 下に打ち消しの語を伴 った②の訳し方に注意。 ①わずかに。ほんの少し。 ②少しも……ない。 まったく(……ない)。	⑩「つゆも、もの空にかけらば、ふと射殺し給へ。」 ⑪「ほんの少し」でも、何か空を走り飛んだら、すぐに射殺しなさい。 ⑫「木の葉にうづもるかけ樾のしづくならては、つゆおとなふものなし。」 ⑬「落ちた木の葉にうづもれている樾のしづくのほかにほ 少しも音を立てるものはない。」 (徒然草)

⑪な……そ 「な……そ」の形 が多いが、「な」 だけでも同じように訳す。 ①……してくれるな。 ②……しないでくれ。	⑪「な……そ」の形が多いが、「な」だけでも同じように訳す。 ①……してくれるな。 ②……しないでくれ。
⑫ほい もともとの希望や目的 を表す。 ①本来の希望。本来の目的。	⑫「神へ参るこそほいなれと思ひて、山までは見ず。」 ⑬「神(石清水八幡宮)へ参拜するのが本来の目的」なのだと思つて、 山の上の本宮までは見なかつた。 (徒然草)
⑬やうやう 「やうやう」が変化 した形。①が重要 ②やうと。かううして。	⑬「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて…。」 ⑭「春は夜明けがたが趣深い。」 ⑮「だんだんと白くなつていく山ぎわが、少し明るくなつて…。」 (徒然草)
⑭やむごとなし そのまま放 置できない ①高貴だ。尊い。身分が高い。 ②格別だ。並々でない。	⑭「いとやむごとなき際にはあらぬが、優れて時めき給ふありけり。」 ⑮「それほど高貴な家柄ではない方で、目立って(天皇の)特別な愛を 受けていらつしやる方があつた。」 (源氏物語)
⑮格別な 名声があつて、多くの 人に詠まれている歌が多い。	⑮「誠にやむごとなき者ありて、人の口にある歌多し。」 ⑯「本当に格別な名声があつて、多くの人に詠まれている歌が多い。」 (徒然草)